

# 領域「環境」における年中行事に関する学生理解と保育実践

田中卓也<sup>1)</sup>、増田吹子<sup>2)</sup>

## A study of understanding of university students and practical of childcare in traditional festival in the field of environment in kindergarten course of study Takuya Tanaka, Fukiko Masuda

### Abstract

The events of "halloween", was famous for children and young people. the most certain events in nursery school and kindergarten are firmly entrenched and considered essential. However, exactly how these events contribute to the maturation of a child has yet to be examined. care teachers. Questions such as, "Which event do you think is important for the maturation of children in nursery schools and kindergartens ?" and "What events did you experience in nursery schools and kindergartens ?"

**Keywords:** the field of environment, traditional festival, practical of child care, the events of "halloween", teaching practice in kindergarten

### 1. はじめに—本研究の目的と先行研究の検討

本研究は、領域「環境」において、将来保育者をめざす学生らが、「年中行事」をどのようにとらえ、また保育実践にどのようにつなげていくのか、について考察・検討を試みるものである。

昨年度まで勤務していたK大学教育学部在職時に、執筆者のゼミ（以降、田中ゼミと表記する）では、毎年、大学近隣にある幼稚園を訪問し、「伝統行事」を取り入れた企画に基づいた体験活動を取り入れている。ゼミには毎年保育者希望の学生が存在しているため、彼らの経験を補うものとして実施されているのが、大きな理由である。とくに毎年園児から人気のあるのが、「ハロウィン交流会」であり、ゼミ学生もハロウィンの時期の1ヶ月前頃から、ゼミの時間を利用して準備にとりかかる。

本稿では、年中行事としては比較的新しいハロウィンを取り上げ、その取り組みの考察・検討を行う。先行研究では、学生のボランティア経験と活動に関するものは多くの蓄積が存在している。しかしながらゼミ活動と保育現場とのかかわりを持ちながら、保育者養成を行うという研究は僅少である。

ゆえに本研究を通じて、年中行事の重要性を学生が認識すると同時に、保育実践にいかすことの大切さを伝える事例として意義があるものであることを示すものである。

### 2. 行事の理解

#### (1) 行事の取り組みに関する留意事項

行事の基本的計画は教師のほうで立案する。しかしながら行事への取り組みせ方についてはできる限り、幼児の自主性を重んじることが大切であり、そのような取り組みが可

1) 静岡産業大学経営学部  
〒438-0043 静岡県磐田市大原1572-1

2) 久留米信愛短期大学幼児教育学科  
〒839-8508 福岡県久留米市御井町2278-1

1) School of Management, Shizuoka Sangyo University  
1572-1, Owara, Iwata-shi, Shizuoka

2) Department of Child Education, Kurume Shin-Ai College  
2278-1, Miimachi, Kurume-shi, Fukuoka

能となるように十分配慮しなければならない。園行事を通じて彼らが成長できるような計画や指導が求められる。そのためには、行事についての教育的意義をしっかりと認識しながら、それぞれの子どもたちの年齢段階での指導の意味付けが重要になる。

また地域資源をいかし、幼児に多角的視点を持たせながら、幼児一人一人の発達の課題を把握し、そのような事象が幼児によってどのような意味を持つものかを捉ええる力を養うことが必要になるため、彼らが望ましい方向に向かって活動を行うことができるように、きめこまやかな支援が大切となる。

### (2) 行事の由来や意味

ところで、「行事」とはいつごろからよばれるようになったのか。6世紀に漢字が中国から伝来後、年中行事は日本で生まれた言葉のようである。年中行事は、平安時代に宮廷で始まったとも伝えられている。後に神社、寺院などでも行われるようになった。

平安時代には武士の力が強大になったため、武士は各地域の農村を支配し、季節ごとに決まった行事を行わせた。江戸時代になると、武士が中心となり、公式の年中行事へと発展し、これが全ての人々に普及していくようになったとされる。

海外からは、クリスマス、バレンタインデー、ハロウィンなどの行事が入り、現在に至っている。

### (3) 自然や文化

年中行事は、日本の自然や文化と大きな関係があるといわれる。お盆は、日本に古くからある行事のひとつであり、祖先の霊を供養するものである。また正月に始まり、節分、雛祭り、端午の節句、七夕、お月見等その季節に応じた行事も少なくない。

このような行事には、けがれや悪霊を体から取り除くために行われてきたという伝えもあり、「端午」(5月5日)では、田植えの時期でもあることから、「五穀豊穰」を願う意味も込められており、日本ではちまきや柏餅を食す。また「重陽」(9月9日)では、邪気を払うために菊のお酒

を飲む風習が行われる。さらに「冬至」(12月22日)では、かぼちゃを食したり、ゆず湯につかって体を温める。もそのひとつとされる。

### (4) 学生の理解の低さとその対策

田中ゼミでは、毎年ゼミ決定者(田中ゼミ)に対し、「子ども文化」に関する課題を出している。田中ゼミは「子どもの遊び・文化&教職総合実践ゼミ」という専門演習を行うことから、ゼミ決定した学生には、子どもの遊びや文化に関する内容(たとえば、伝承遊びとは何か?伝承遊びには、どのような種類があるのか?国民の祝日の意味や由来、年中行事の意味や由来など)をレポート課題(A4サイズ1,600字程度)とし、ゼミ開始前の時期に、田中ゼミの先輩ゼミ学生の前でおよそ10分間程度の発表を実施させている。とりわけ年中行事のなかにおいても、「ハロウィン」、「クリスマス」、「バレンタインデー」、「お正月」、「お盆」については、大方どのゼミ学生も理解している。学生の中で身近に感じられるものであるという理由が多い。

しかしながら「春の七草」および「秋の七草」とは何かにはじまり、「端午の節句」や「重陽の節句」の由来、「夏至」および「冬至」の由来などについて発表する学生の8割以上が「全く知らない」とか「聞いたことはあるが、詳しい意味はわからない」という回答であった。やはり古来の名称を使用した行事には、関心を示さない傾向にある。

田中ゼミ学生には保育者、小学校教諭を志望する学生が多い。しかし日本古来の年中行事への理解が豊富ではないのは大きな問題であることを痛感し、執筆者は、ゼミ活動において、年中行事を理解し、それを自らの経験として積極的に実施させることを伝えるようにした。彼らが現場に出てから、彼らが困惑しないようにすること、さらには現場にいる幼児や児童に、先生となった十分指導できるようになってもらいたいという、切実な願いからである。「春の七草粥づくり」、「中秋の名月にお月見団子を食す」、「さつまいもの植え付けおよび収穫作業」、「焼き芋体験」、「紙雛人形制作」などはその事例である。また「ちま

きは食べたことあるが、なぜかわからない」という学生には、「ちまきゼミ」を特別に行ったり、「ゆず湯につかること」や「かぼちゃを食す」ことなども実際にゼミ内容を急遽変更し、「冬至ゼミ」というかたちで行うことも少なくなかった。

かくして年中行事への理解、関心のやや低い傾向にある田中ゼミでは、学生らの学びとしてこれらの企画を実施することもあった。

### 3. 園生活における行事

#### (1) 園における行事の実際

わが国では人間関係が希薄化し、核家族化が進行している。核家族化の進行により、地域のつながりが希薄化し、世代間で年中行事そのものが継承されにくい状況にある。そのため保育現場においても、年中行事を真剣に考える機会が必要であり、価値について幼児に伝えていく必要があると考える。

年中行事の考えは、もともと日本の保育現場にあったわけではない。1876(明治9)年に、わが国最初の幼稚園として、「東京女子師範学校附属幼稚園」を創設した。創設者は当時の西洋の保育事情に詳しい中村正直、関信三等であった。なお同園は現在のお茶の水女子大学附属幼稚園のことをさす。同園では、「ドイツ一般幼稚園」の創設者フレーベルの保育思想や実践をわが国に根付かせるために創設したものであり、日本の幼児の生活とは程遠くかけ離れたものになっていた。フレーベル主義の影響を受けながら、日本独自のものに根ざすことで、年中行事は受け入れられるようになったといわれている。

年中行事とはどのようなものか。幼稚園や保育所で年中行事を経験して初めて知ったという保護者も少なくない。また幼稚園と保育所、小学校が、地域と連携して地域社会を構築することが求められている昨今、交流を目的とした行事も増加している。

また幼稚園、保育所で勤務する先生らは、地域の子育て支援の役割が担われ、子育て支援事業の一環に組み込まれることになった。こうした状況において、園における行事に意義や役割はますます大きいものとなった。今

では行事の数も決して少ないとはいえないほど存在している。幼稚園や保育所では、どのような行事があるのかについては以下の表1および表2に掲載している。

表1 ある幼稚園の園行事一覧

4月	入園式、保育参観、家庭訪問
5月	子どもの日企画(こいのぼり集会)、避難訓練
6月	園外保育(3・4・5歳)、プール開き
7月	七夕の集い、夏祭り(夕涼み会)、プール参観、個人懇談会
9月	始業式、避難訓練、お月見
10月	運動会、園外保育(さいまいもの収穫)、市内音楽会、ハロウィンパーティー
11月	園外保育(動物園)、こどもフェスティバル
12月	クリスマス会、エキゾチッククッキング、大根焼き
1月	始業式、たこあげ・はねつき・もちつき大会、避難訓練
2月	節分のつどい、生活発表会、学級懇談会
3月	ひなまつり、お別れ会、保育修了式

表2 ある保育園の園行事の一覧

4月	入園式、こいのぼり掲揚式、春の親子遠足
5月	内科検診、保護者会、歯科検診
6月	個人面談、戦争の語りの会
7月	プール開き、七夕まつり、保育参観、夏季交流保育
8月	プール開放日、夏季交流保育
9月	どろんこ遊び、お月見
10月	運動会、総合消防訓練、園外保育、いもほり遠足(3・4歳児)
11月	内科検診、七五三まいり、歯科検診、劇団すぎのこ観劇
12月	クリスマスツリー飾り、おゆうぎ会、開園記念日、お楽しみ会
1月	新年のつどい、保護者会レク
2月	節分、豆まき、雛段飾り、クッキングパーティー
3月	ひなまつり会、お別れ遠足、お別れ会、卒園式、修了式

表2および表3からもわかるように、幼稚園や保育所では、さまざまな行事が存在する。保育者は日々の業務に加え、子どもたちに日々の生活を楽しく過ごさせるためにも、さまざまな取り組みが欠かせない。

園での年中(年間)行事を行うことは、保育者にとって欠かせない意味がある。

#### 4. 領域「環境」における行事とは

行事は、保育においてどのような位置づけがなされているのであろうか。ここでは『幼稚園教育要領』、『幼稚園教育要領解説』、『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』および『認定子ども園教育・保育要領』、『認定子ども園教育・保育要領解説』(2017年改訂版)で確認しながら、領域「環境」における行事の意義と役割について、見ていくことにしたい。

『幼稚園教育要領』の領域「環境」において、「行事」に言及している箇所は2か所ある。それは第2章のねらい及び内容にある。

領域「環境」(11)幼稚園内の行事において「国旗に親しむ」のみの記述になっている。また『幼稚園教育要領解説』によれば、この項目に対して「幼児期においては、幼稚園や地域の行事などに参加したりする中で、日本の国旗に接し、自然に親しみをもつようにし、将来の国民としての情操や意識の芽生えを培うことが大切である」と解説しており、ここでは、行事は国旗に親しむ機会の一つととらえられている。

しかし、『幼稚園教育要領解説』をさらに読み進めると、領域「環境」における内容「(3)季節により自然や人間の生活の変化のあることに気づく」の解説の中で、行事が登場する。ここでは、次のように触れられている。

幼稚園の外に出掛けると、季節による自然や生活の変化を感じる機会が多い。幼児が四季折々の変化に触れることができるように、園外保育を計画していくことも必要である。かつては、地域の人々の営みの中にあふれていた季節感も失われつつある傾向もあり、秋の収穫に感謝する祭り、節句、正月を迎える行事などの四季折々の地域や家庭の伝統的

事に触れる機会をもつことも大切である

ここでは園外保育や年中行事を通して、季節感や人々の生活の変化、四季折々の伝統行事に触れることの大切さについて述べられている。

次に『保育所保育指針』と『保育所保育指針解説』のなかで「行事」に関する内容を見てみたい。『保育所保育指針』では、第3章保育の内容1にある保育のねらいおよび内容(2)教育に関わるねらい及び内容ウ「環境」の(イ)内容において、「<sup>⑩</sup>近隣の生活に興味や関心を持ち、保育所内外の行事などによるこいで参加する」としている。『保育所保育指針解説』では、この内容に関して次のように解説している。

子どもは、身近な大人の様子を観察し、模倣したり、イメージを取り込んでいく。また、大人の仕事や生活に興味を持ち、それらをままごとやお店屋さんごっこに取り入れて遊んだり、役になりきって表現遊びを楽しむことになる。大人の生活や身近な社会の事象への関心は年齢と共に高まり、大人の手伝いをしたり、近隣の人々の生活や環境などへの興味や関心を広げていくため、電車やバスなどの公共機関にも関心を持ち、さらに地域には様々な場があり、様々な人がいることを知ることになる。

また、子どもは、友達や保育士等、保護者とともに保育所内外の行事に参加し、その雰囲気を楽しんだり、楽しんだりしながら、徐々にその中で自分ありの役割を果たすことができるようになる。子どもが、こうした社会の事象に関心を持ち、人と人が支えあって生活していることに気づいたり、人の役に立とうとする気持ちが芽生えていくように、保育士等が子どもの気付きに共感しながら適切に働きかけていくことが求められるのである。

ここでは、子どもたちが、園外保育などで地域の生活に触れたり、自分をとりまく社会への興味・関心を広げていくことや、また園内外の行事に参加することで、地域社会や集

団への理解を深めると同時に自分もその一員であることに気づきその役割を果たすことなど、行事の意義について言及されている。また、幼稚園教育要領と同様の項目である、環境（イ）内容において、「⑤季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く」については、下記のように解説されている。

子どもは、散歩の機会や園庭で遊んでいる時などに、温度の変化、木々の葉の色のうつろいや、日差しの強さ、風の冷たさなどを通して季節によって自然が変化することに気づき、また、自然の変化に富むものとなって、食べ物や衣服、生活の仕方など、人間の生活も様々に変化することに関心を持つようになる。

こうした季節の変化に目を向けたり、気付いたりすることができるよう、自然に触れる機会を計画的に設けたり、季節感のある遊びを取り入れたりしながら環境構成にいかしていく。また、季節の草花や野菜などを栽培したり、季節に応じた伝統行事に触れたりする機会を持つことも大切である。子どもが自分の感覚を用いて季節の変化を感じ取ることができるようにするとともに、保育士などが季節感を取り入れた生活を楽しめるような取り組みも求められる。

ここでは、季節による自然の変化、その季節ならではの人々の生活の変化や伝統にふれる一機会として行事をとらえていることがわかる。

以上のことから、領域「環境」において「行事」の意義や役割は、季節感を味わい、季節によって人々の生活が変化することを知り、地域社会とのつながりを意識する場であり、またその季節ならではの日本の伝統、文化に触れる機会でもあると捉えている。

## 5. 行事の展開と指導計画

(1) 行事のプロセス「ハロウィン行事を通した園児との交流活動」を事例として一

行事のプロセスを考えるうえで、ここでは第一執筆者が以前勤務していたK大学教育学

部の田中ゼミの活動の一環として行われた、「ハロウィン行事を通した園児との交流活動」の事例を取り上げてみたい。すでにハロウィンは国内でも秋の行事として捉えられている園も存在し、少しずつ知名度が上がっている。この交流活動は、執筆者のゼミの恒例の活動行事のひとつで、ゼミ学生のなかで幼稚園教諭を希望する学生を対象に、ゼミ学生内で企画を考えさせながら、幼稚園、認定子ども園で行ってきた。ゼミの時間を利用し、およそ30分から長い時では1時間30分程度、4歳児から5歳児の園児（30名～40名程度）とともに「ハロウィンの由来」、「ハロウィン」をモチーフとした集団活動、「ハロウィンにまつわる絵本」の読み聞かせ、ハロウィンに関する製作活動等を行っている。ゼミ学生は、映画「ハリーポッター」になぞらえ、「K魔法学校」の生徒という仮定で、園児の子どもたちと楽しく交流することが目的となっている。ハロウィンに登場する「かぼちゃ」については、園庭に植えたかぼちゃを、事前に園児に観察させ、絵に描かせたりしてイメージを持たせている。これを通してかぼちゃやおばけ、こもり、魔女等を折り紙などで実践させたりして、製作活動も行う。

とりわけ、「パンプキンバック」、「おばけ紙皿バスケット」などは園児から大人気であるため、ゼミ学生と園児がともに製作し、完成したら園児にプレゼントしている。また参加学生だけでなく、園児全員でハロウィン衣装で着飾り、楽しむこともある。

### 【〇〇〇子ども園ハロウィン交流会 指導計画】

<テーマ>

「〇〇〇子ども園で、あの子もこの子もトリックアトリート！みんなでハッピーハロウィン！」

<日時>

2015年10月28日（金）9：45～11：15（90分）

<場所>

〇〇〇子ども園大保育室

<ねらい>

・ハロウィンの行事の由来を知り、興味や関



心を高める

- ・園のお友達同士で考えを出し合いながら、つくる楽しさを味わう
- ・園のお友達や大学のお兄さん、お姉さんとパーティーを楽しむ

<対象児>

5歳児 男児15名 女児15名

合計30名

<園児の実態と教師の指導観>

園児は自らの遊びを見つけて、遊ぶことが多く、その中に友達が入り、仲間を見つけて遊ぶことになる。友達関係が深まると、仲間に入れてもらえないことを理由にいざこざが起こることもある。おたがいに言葉で伝えあうことが難しい時もあるので、教師が仲立ちをして手助けをすることもある。

製作には関心が高まってきており、自分の好きな素材を選び、積極的に釣るようになってきている。はさみやのりをうまく使えない幼児もいるので、教師がじっくり指導するように心がけてきた。

<内容>

1. “K魔法学校”の生徒の自己紹介
2. ハロウィン行事の由来
3. ハロウィン絵本の読み聞かせ (『ハロウィンってなあに?』)
4. マスゲーム「かぼちゃをいくつさがせるかな?」
5. ハロウィングッズ製作 (おばけ紙皿バスケットづくり)
6. 魔法学校の生徒からのプレゼント (おかしとかぼちゃメダルの配布)
7. さよならのあいさつ (終)

## 6.おわりに

学生らは、保育者、小学校教諭を希望して日夜大学で学問を習得しているが、日本古来の「伝統行事」に関心はあるものの、詳細を知らない学生が少なくなかった。また、保育者を希望するゼミ学生らは、ハロウィン行事に関心は持っているものの、園児の前でそれを企画し、展開することについては、なかなかうまくできなかったようである。コミュニ

ケーション不足などが要因にあげられる。しかしながらリーダーが指揮し、本番の日程が近づくにつれて、協力しあうことを行うようになり、なんとか頑張りを見せることになった。

領域「環境」における年中行事は、学生たちにとっては大変大切なものであり、社会人になるまでにしっかり身につけて行われなければならないことであることも学生自身が個々に理解したと考えることができよう。

とりわけ保育者は年中行事と切っても切り離せない関係にある。

## 【引用文献・参考文献】

- 1) 文部科学省編.幼稚園教育要領解説.フレール館、2017.pp6～8
- 2) 厚生労働省編.保育所保育指針解説.フレール館、2017.pp10～12
- 3) 内閣府編.認定子ども園教育・保育要領解説.フレール館、2017
- 4) 岡野聡子・筒井愛知編.子どもの生活理解と環境づくり.ふくろう出版、2013
- 5) 田中卓也ゼミ編.明るく、楽しく、実のあるゼミをめざして 田中卓也ゼミ (タクゼミ) 活動報告書.2013～2017